

森の民話茶屋 25 周年記念イベントに参加し、2 等（お食事券）が当たり嬉しかったです。
とてもきれいに盛り付けられていて、味も最高でした。1 つ残さずきれいに食べました。落ち着きながら食事でき、シニアには最高です。

建物全体が暖かみのある茶色の空間で心地の良い時間をすごせました。
ごちそうさまでした（^.^）

自動車学校の免許合宿で福岡から 5 人で来た大学生です。ようかと抹茶をいただきました。
店員さんも温かくてとてもくつろげました。普段は生の方言を聞く機会は少ないので、民話の方言はとても新鮮でした。いろいろな民話についてももっと知りたいと感じました。ありがとうございました！また来たいです！

今年のオープン記念式の抽選会でお食事券を GET していただいたお客様がご来店！

9 月初旬、合宿免許でアットホームおおたまの Cottage にご宿泊の大学生のお客様方が連日ご来店！
大玉村、福島県の郷土料理と大玉村の方言や民話を楽しんでいただきました。

～オープン式の抽選会にて森の民話茶屋のお食事券 / ドリンク券ご当選のお客様～
11 月 17 日（日）までご利用いただけます。今年度の営業終了後はご使用いただけません。ご注意ください。

今年度の営業は 11 月 17 日（日）までです！

店舗情報



OPEN: 土・日
10:30 ～ 14:30
(平日: 12 名以上の団体様のみ
利用可です。ご相談ください)

お食事の数には限りがあります。
事前予約がおすすめです。
☎土・日 0243-24-7410
(森の民話茶屋)
☎平日 0243-24-8096
(大玉村役場産業課)



↑ Google マップ

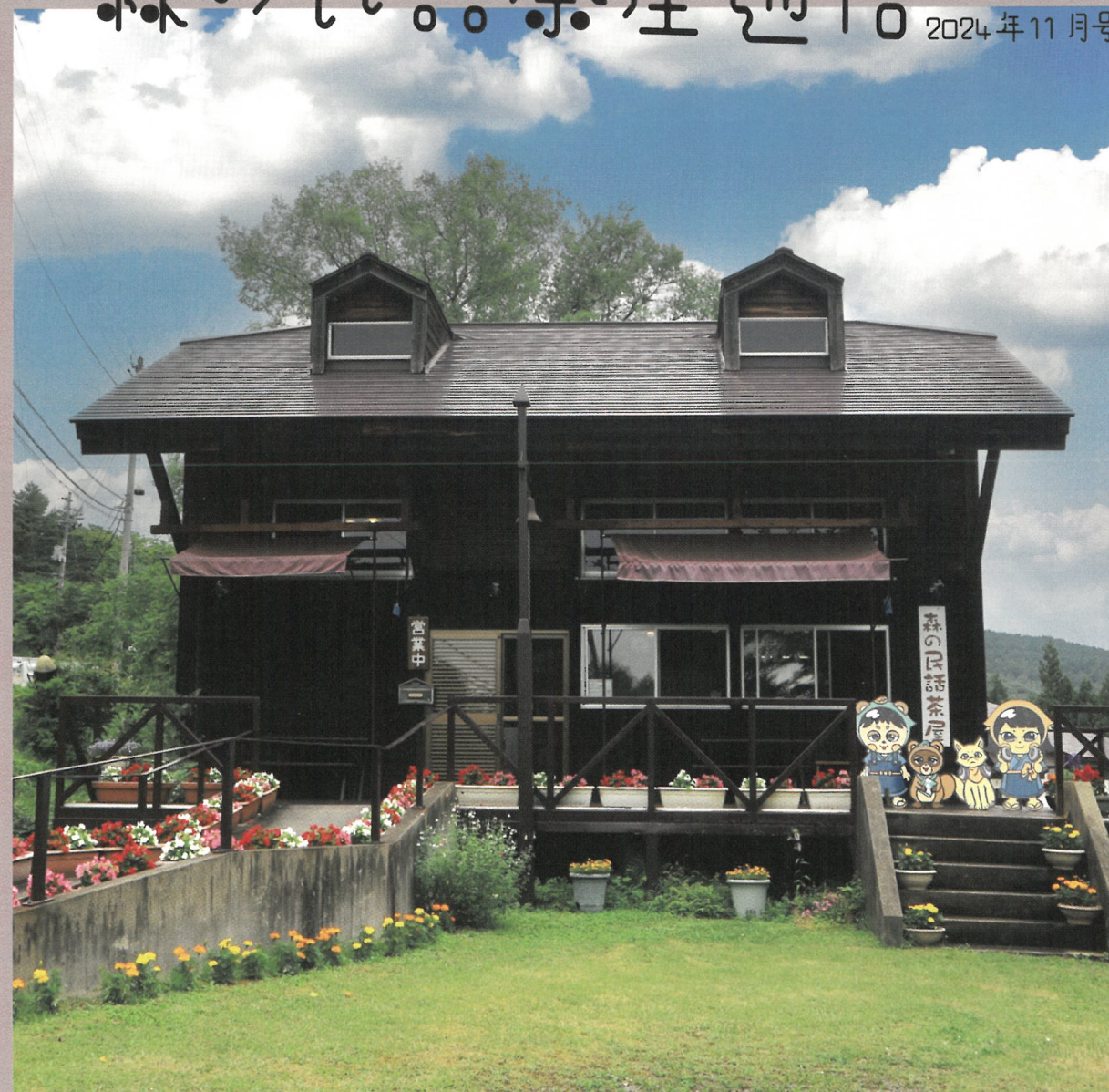


↑ 森の民話茶屋通信
Vol. 1 ～ 22 を見る

ふるさと民話とふるさと食をつなぐ

森の民話茶屋通信 Vol. 26

2024 年 11 月号



森の民話茶屋の空間 と 生まれる物語

— 森の民話茶屋運営委員会 —

森の民話茶屋の空間 と 生まれぬ物語

たくさんの民話や会話が育んできた温かな物語が、茶屋の店内そこかしこに溢れています。

～森の民話茶屋の絵～
森の民話茶屋通信 Vol.1～22 の表紙になっていました。店主スケッチの絵です。



～気まぐれの灯り～
たまーにパッと消えて気がついたらまた灯っている気まぐれさんです。



～「ちよっとお茶しよ」～
始動当初からお茶文化を取り入れている森の民話茶屋らしい、やさしい言葉と絵が飾られています。



1人でも多くの出会いがあって、この空気感を楽しみ癒されてほしい。
村全体で茶屋の空間を楽しめたらなお嬉しい。
—店主—



～茶屋のお地藏さま～
森の民話茶屋を見守ってくれているやさしい顔の三地蔵さま。レジの前に鎮座しています。



～パッチワーク～
婦人会のみなさんが作った思い出の作品。カラフルさと思いが相まった茶屋の明るさの元の1つです。



～森の民話茶屋ライブラリー～
大玉村、福島県のおはなしだけでなく、国内外の伝説や絵本まで揃うおはなしの宝庫。ご自由にご覧下さい。

お客さまが森の民話茶屋にくださった
4匹のネコちゃん



クロネコちゃんは、「にあ～うのおはなし」の相棒です。

他にも、森の民話茶屋の店内には
福島県の伝統工芸品や
お客さまからいただいた
手作り工芸品の数々が。

どれも、森の民話茶屋の空間を
作り上げる大切なピースです。

「人がいてこそ建物が生きる」

これまでの交流と思い出が刻まれた
訪れた人の心をじんわりと温める
そんな場所です。

～森の民話茶屋メンバー Q&A～

Q. 森の民話茶屋のお気に入りポイントは？

國分 幸子 さん



A. 茶屋の周りの風景

森の民話茶屋は
四季折々の森の風景
に囲まれています。
まちの風景や雲海、
鳥の鳴き声、
木々や草花の香り、やさしく吹く風、・・・
みてもよし、きいてもよし、ふれてもよし
「五感で楽しむことができる自然環境」
に囲まれていることが森の民話茶屋の
素敵なポイントの1つで、私が好きなところ
でもあります。



官野 邦子 さん



A. ログハウス全体

森の民話茶屋の建物、
テーブル、イスなど
茶屋の建物内は
ほとんどのものが
木で造られていて、
木ならではのあたたかみがあります。
木造だからその難点はあるありますが、



それも含めて自然の良さ

であって、これまで数十年このログハウスを
素敵なまま保ってきたこともすごいことじゃ
ないかと思います。

地域おこし協力隊
遠藤 愛佳



A. 季節の花

森の民話茶屋には店内の至る所に
季節の花々が飾られています。
季節の移ろいを感じられますし、
お花がきっかけでお客さまとの
会話が生まれることも多いです。



— 1輪の花にも物語を持たせて
癒しの空間をつくり上げる—

大玉村に来てすぐ、森の民話茶屋で教えて
いただいたことです。大切にしたい、大切に
しなければならぬ、茶屋に関わらせていた
だくうえで私の軸になっています。

ふるさとの
方言クイズ

むずかしさ ★★★

【じょっじょ】

ヒント：こたえは左ページの写真
のどれか！ふるさとを知る身近な
誰かに聞いてみてください。

昨年6月、大玉中学校で3年生の生徒の皆さんに
「森の民話茶屋とはどのような所なのか？」「民話とは
何か？」を知ってもらべく、森の民話茶屋を紹介し
民話動画を視聴していただきました。
その後の質問コーナーでのことです。1人の生徒さん
から『民話を新しく作ることはできるんですか？』と
いう質問が。
それまで、「民話は昔のおはなしである必要がある」と
思っていたのですが、そうとは限らないのではないかと、
自分の中で民話に対する新しい解釈が生まれたこと
を覚えています。

昔、いろいろを囲んで家族団らんの時間として生まれ
親しまれたおはなしが、今この時代まで語り継がれた
ことで立派な「民話」として記憶・記録されています。
もし今あなたが、身近なものやふるさとで体験したこと、
ふるさとへの想いについて語り、それを何年何何
十年も語り続けたら、同様に立派な「民話」として
記憶・記録されるようになるのではないのでしょうか。

なんだか読解問題のようになってしまいましたが、
古い新しいやクオリティなど細かいことは気にせずに
『ふるさとのおはなしをどんどん楽しんでいこう！』
とお伝えしたいのです。
あなたの身近なところにも、あなたなりの民話の種が
ころがっているかもしれません。

地域おこし協力隊 遠藤